

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	子どもの居場所づくり支援事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
実行団体名:	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
実施時期:	2020年11月～2021年11月
事業対象地域:	青森県内
事業対象者:	子ども食堂等の子どもの居場所づくりと運営している人及び始めよう と 思っている人 支援を必要とする子どものいる世帯

Version 3.2

日付: 20xx年xx月xx日

## I. 事業概要

事業実施概要	<p>①子どもの居場所の再開と立上の支援と、②食品等の配達やパントリーなどの新たな取り組みへの支援を行った。</p> <p>①子どもの居場所の再開と立上の支援にあたっては、県内3地区でネットワークを構築している3人の「子どもの居場所づくりアドバイザー」と48人の「子どもの居場所づくりコーディネーター」等を派遣するとともに、食材や物資の調整や仲介を行う人材を本会に配置して、総合的に子どもの居場所づくりを支援した。事業開始時の30ヶ所の子どもの居場所は、ほぼ何らかの形で活動を再開し、さらに15ヶ所が新規に居場所を立ち上がった。感染対策機器やオンライン開催のための機器、屋外活動の道具を無償で貸出を行い、整備後の2021年の2月以降、貸出物品の無い日は1日も無かった。</p> <p>②食品等の配達やパントリーなどの新たな取り組みへの支援にあたっては、青森県内4地域において「こども宅食おすそわけ便」を展開した。1年間で利用者は延べ2万人を超え、運営する団体は52団体、寄付者は600人を超えている。また、独自でパントリーや食材配布を行う団体に対し、フードバンク機能等を活用し、食品等の調整を行った。</p>
--------	--

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>①子どもの居場所が新規に15ヶ所も立ち上がったことは大きな成果であり、既存の子どもの居場所も何らかの活動を再開した。しかしながら、食事を共にする「会食」の形式で再開しているところは、やはり5ヶ所にも満たず、従来の「こども食堂」らしい、皆で食事を共にする場の再開は十分に実現できなかった。一方で、②「こども宅食おすそわけ便」を初めとする食品等の配布活動やパントリーは盛況で、これまで「子ども食堂」を利用して来なかった人たちの出会いやつながりを作る場として定着した。既存のこども食堂を開催したうえに、食品等の配布活動を開始した運営者にとっては、活動頻度が増え、労力や時間も割かれているが、利用される家庭も多く、コロナ禍が落ち着いたとしても、継続する必要性の高い活動となっている。</p> <p>コロナ禍において「居場所」の活動が多様化し、ネットワーク団体として、県内各地域の活動を把握することがさらに困難になっており、それぞれの情報の共有や支援のあり方を再検討する必要性も認識される。</p>
-------------------	---

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
生活困窮者	居場所の不足	新たな子どもの居場所の立上により、新たな開催様式やさまざまな人が参画する子どもの居場所が増加する。	子どもの居場所の立ち上げ	20ヶ所	15ヶ所	期間前半には立上が続いたが、コロナ禍の長期化により停滞。立上の研修もオンライン開催になり、参加者は伸び悩んだ。
生活困窮者	居場所の不足	既存の子どもの居場所が再開され、新たな開催様式やさまざまな人が参画する子どもの居場所が開催されるようになる。	子どもの居場所の再開	99%	100%	既存の子どもの居場所は全て、何らかの活動の再開はしたが、会食としての開催は多い時でも20%（6ヶ所）であった。
生活困窮者	相談先の不足	子どもや子育て家庭へのアプローチが広がり、これまでこども食堂に関わりがなかった人との交流が始まる	こども宅食やパントリー	青森県内5地区 20ヶ所	青森県内4地区 52ヶ所	運営団体は、予想をはるかに超えた。青森県の圏域6ヶ所のうち4ヶ所での実施を実現したが、残り2ヶ所の実施調整には時間が不足した。

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	<p>既存の子どもの居場所を開催か食材等の配布配達などの形で再開するように支援を行う。</p> <p>新規の子どもの居場所の立ち上げの支援を行う。</p> <p>支援が届きにくい家庭へつながり続けるために宅食等の立ち上げの支援を行う。</p> <p>既存の子どもの居場所において、パントリーや宅食などの新たな活動展開を図るための支援を行う。</p>
考察等	<p>目標とする状況は、全て実現できている。子どもの居場所の再開と立上の支援にあたっては、3人の「子どもの居場所づくりアドバイザー」と48人の「子どもの居場所づくりコーディネーター」等を派遣するとともに、食材や物資の調整や仲介を行う人材を本会に配置して、総合的に子どもの居場所づくりを支援した。支援が届きにくい家庭はつながりや食品等の配達やパントリーなどの新たな取り組みへの支援にあたっては、青森県内4地域において「こども宅食おすそわけ便」を展開し、多くの利用者、運営者及び協力者を得て継続実施できている。</p> <p>長らくコロナ禍において、当初想定していないニーズや活動の広がりがあり、本会が求められる役割も広範囲に渡り、多様化している状況。こうした状況に対応すべく、居場所づくりの支援もシフトチェンジする必要性を認識している。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
子どもの居場所づくりアドバイザーの派遣	計画通り	通年実施された（予算は使用しない派遣が多かった）
子どもの居場所づくりコーディネーターの派遣	計画通り	通年実施された（予算は使用しない派遣が多かった）
子どもの居場所づくりの再開・立ち上げの相談	計画通り	通年実施された（予算は使用しない支援が多かった）
子どもの居場所のための食材や物資等の仲介・配布	計画通り	通年実施
子どもの居場所への非接触型体温計やモバイルWifiの貸出	計画通り	貸出物品の拡大があり、計画を上回る実施となった。
子どもの居場所運営者の各地域のネットワーク会議	ほぼ計画通り	オンライン開催も含めて、ほぼ計画通り実施された
子どもの居場所運営者の県域ネットワーク会議	ほぼ計画通り	オンライン開催など、開催頻度は実施は計画よりも少ないが、ほぼ計画通り実施された。
子どもの居場所づくりアドバイザー・コーディネーター連絡会議	ほぼ計画通り	オンライン開催など、開催頻度は実施は計画よりも少ないが、ほぼ計画通り実施された。
子どもの居場所づくりアドバイザー打合会議	ほぼ計画通り	オンライン開催など、開催頻度は実施は計画よりも少ないが、ほぼ計画通り実施された。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>居場所の再開支援のための物品の貸出は、感染対策機器やオンライン開催のための機器、屋外活動の道具などとコロナ禍の状況と新製品の登場で拡大し、活動内容の広がりが生まれた。</p> <p>「こども宅食おすそわけ便」の展開は、1年間で利用者は延べ2万人を超える盛況ぶり、呼応して運営する団体も増加したが、無償の食品寄付者が延べ600人を超え、食品等の寄贈と分配の調整に日々追われる状況となった。</p> <p>子どもが集まらなかった既存の「こども食堂」にも、多くの子育て家庭が来場するきっかけになっている。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>支援が届きにくい子育て家庭にとって、長時間過ごす「こども食堂」のような居場所よりも、パントリーや食品配布の活動の方が「入口」として抵抗感が少ないことが明らかになり、定期開催として設定している「こども宅食おすそわけ便」からの、さらなる活動やつながりの広がりが求められているところである。こども食堂への参加の促しとともに、こども食堂における相談支援の充実を進めることも今後の課題となる。</p> <p>従来のこども食堂の活動内容も、オンラインや屋外活動など広がりが生まれており、活動内容の充実やその支援が求められている。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
農業団体（農協中央会等）	食品提供元との会議・農業団体（各農協の青年部や女性部など）の「居場所」開催の支援

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	5,789,800	6,171,152	106.6%
	管理的経費	694,800	340,052	48.9%
合計		6,484,600	6,511,204	100.4%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	新聞掲載約30回、テレビのニュース放映11回、NHK青森放送局の特集1回
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	周知チラシ（25回分）
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	